

2026年3月15日 礼拝説教要旨

ヨハネによる福音書講解説教75「たとえ愛せなくても」

イザヤ66：1～2、ヨハネ13：36～38

「わたしの行く所に、あなたは今ついてくることはできないが、後について来ることになる」（36節）とイエスさまはおっしゃいました。イエスさまは一体どこに行かれるのでしょうか。結論から申しますと、イエスさまは父なる神さまのところからこの世に来られ、そしてまた父なる神さまのもとへ行かれるのです。ですからイエスさまの行かれる所とは、父なる神さまの所と言うことができます。それはこの後、第16章でも「わたしは父のもとから出て、世に来たが、今、世を去って、父のもとに行く」（16：28）とイエスさまは言われます。重要なことは、そのこととわたしたちがどう関わりがあるのかということです。「今はついてくることはできないが、後について来ることになる」とはどういうことでしょうか。

前回のところでイエスさまは「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい」（13：34）とお教えになりました。互いに愛し合うことは頭では大切だと分かっていますが、いざ実践するとなると困難であると感じます。時にわたしたちは愛せなくなります。どんなに仲の良い家族であっても、親しい間柄であっても、すれ違いや誤解によって愛せなくなる。そういう経験は誰もがもちでしょう。また今日のところでイエスさまは、弟子のペトロに対して「あなたは三度わたしのことを知らないと言うだろう」とおっしゃった。「あなたのためなら命を捨てます」とまで豪語したペトロです。けれどもそのペトロがイエスさまの言われた通り、この後あっさりイエスさまを否定してしまう。誰よりもイエスさまを愛している。それだけは自信があったペトロですが、いざイエスさまが捕らえられると怖気付くのです。それでつい「知らない」と言ってしまう。彼の愛は完全に打ち砕かれてしまいました。

それは決して他人事ではありません。わたしたちのことです。その愛の破れはアダムとエバが神さまとの約束を破ったところからすでに始まっておりました。その罪こそ、わたしたちの愛の限界、愛の破れの原因です。愛することは大事だと分かっているけれども、それができない。だから苦しい。けれどもできないことをわかって、それでもしなさいと聖書は教えているのか。神さまはわたしたちにそういう無理難題を押し付けておられるのでしょうか。あるいはそういう「理想」を掲げて、それに少しでも近づきなさいと教えているのでしょうか。

このヨハネ福音書とも深いつながりがありますヨハネの手紙の中に次のような言葉があります。「愛する者たち、互いに愛し合いましょ。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです」（Iヨハネ4：7～8）「愛は神から出る」愛の源泉、源は、わたしではない。神さまです。そこから愛をいただかなければわたしたちは愛せないのです。聖書の教える愛も赦しもすべてはそこが前提です。そのことは何度でも立ち帰らなければいけないことです。

わたしたちは自分の力で愛せるものと考えているかもしれませんが、そうではありません。愛は神さまから出るのです。その愛の源泉である神さまのもとに行く。そこにつながることなくしてわたしたちは何もできません。愛することなどできないのです。だからこそイエスさまは繰り返し言われる。「わたしの行く所に、あなたたちは来ることができない」と。これは何より罪ゆえに神さまとの関係が切れている状態を考えることができるでしょう。わたしたちは罪ゆえ

に神さまのもとに行くことができない。神さまとつながることができない。だから愛せないし、赦せないのです。けれども今日のところでイエスさまはペトロに言われます。「わたしの行く所に、あなたは今ついて来ることはできないが、後でついて来ることになる」(36節)とおっしゃった。「後でついて来ることになる」ここに希望があります。

それはイエスさまの十字架とよみがえりの御業によって、わたしたちが罪を贖われ、神さまとの関係を回復されることを意味しています。「ついて来る」(アコリユーセオウ)というのは、弟子として従うという意味です。イエスさまの十字架とよみがえりを通して、そこから弟子としての本当の歩みが始まる。そのイエスさまの十字架とよみがえりに合わせられ、師と弟子が一つになるようにして、イエスさまのように愛すること、赦すことを可能にするのです。

この後のペトロのことに少し触れておきます。ペトロはイエスさまの予告通り、イエスさまを否定します。やはりイエスさまを愛すること、イエスさまに従うことができませんでした。しかし、この後、福音書は最後でよみがえりのイエスさまと弟子たちの再会を記します。第21章15節以下では、よみがえりのイエスさまとペトロとの対話があります。三度、イエスさまを知らないと言ったペトロに対して、イエスさまは三度「わたしを愛するか」と問われます。そして最後に「わたしに従いなさい」とおっしゃった。ここで「従いなさい」と訳された言葉は、「後でついて来ることになる」(アコリユーセオウ)と言われた言葉と同じ言葉です。

イエスさまの十字架とよみがえりの御業によって罪から救われたペトロは、イエスさまを愛し、そして最後までイエスさまに従う道を歩みました。最後は殉教の死を遂げるのです。それは彼の中の愛が可能にしたのではなく、ペトロを愛し抜かれたイエスさまによって、神さまとのつながりを回復したからに他なりません。ペトロもまた神さまの愛に生きる者と変えられていきました。イエスさまは「わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう」(12:32)とおっしゃいました。洗礼を受けてイエスさまと結ばれるとき、わたしたちもまたイエスさまの弟子として、イエスさまのように愛する者とされます。神さまの愛に生きることができる。たとえ愛せなくても、そういう新しい命の歩みがすでに始められています。

わたしたちの現実を見れば絶望することばかりです。でも決して愛することを諦めてはいけません。どうせ無理だ、罪人だ、そんなことを言って誤魔化してはいけません。もちろん人間の中から愛は生まれてきません。けれどもイエスさまに結ばれているならまだ望みはあります。愛の源泉を持っているからです。そこに希望があります。

天の父よ。イエスさまがわたしたちを神さまのところに、そのよみがえりの命の中に立たせてくださる幸いを覚えて感謝いたします。どんなに愛に破れた現実でありましても、愛せなくても、あなたが与えてくださった望みに生きることができるよう。どこまでもイエスさまの弟子として、イエスさまについて行くことができますように導いてください。主の御名によって祈ります。アーメン。